中学校の事例 西　区 八軒中学校

農業や酪農などの職業体験を通じ自然を体感。地産地消を学び食育から環境教育へ。

総合的な学習の時間の中での職業体験。
酪農・農業をとおして、自然の大切さと厳しさを学び食物の美味しさを実感。
残さず食べる気持ちも芽生える「食育」、
そして「地産地消」さらに環境教育へと広げる取組に。

内容　田植えや草取り 乳搾りを体験　宿泊研修で命を食べていることを学ぶ

本校では6年前から、長沼町で2年生が、農家の協力を得ながら農業体験を行っている。1泊2日の宿泊研修で、生徒たちは1日目に田植えと畑作業の体験、2日目に酪農体験を行う。

約1時間半の体験となった田植えは、日中気温が低かったのでウィンドブレーカーを着て足元はビーチサンダルで作業。実際に植えることは楽しさもあるようだが、寒さで震えていた生徒もおり、農業の大変さを実感し、加えて自然の厳しさも知ることとなった。

田植えの後、トマト農家でワキ芽とりや除草といった作業も体験し、収穫したてのキュウリを試食。とれたての味の違いを知ることにもなった。

このように地産地消を体験をとおして学ぶことで、環境意識への発展にもつながっていくと考える。

田植えのようす①

田植えのようす②

効果　農作業や酪農体験を通じて 食への感謝を育む

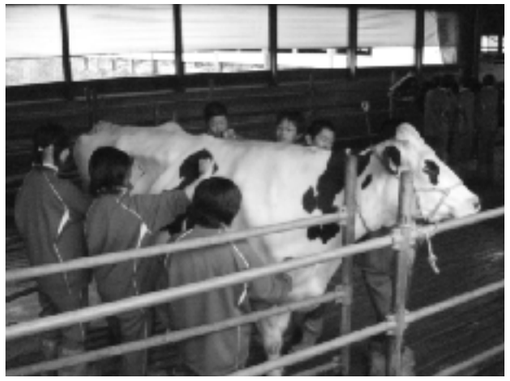
生徒たちは田んぼや畑での農作業体験を通じ、食べ物が作られるまでの苦労の一端を理解するようになった。

また、酪農体験の際には、乳牛も数年経って搾乳できなくなると食肉となってしまうことを聞き、自分たちが日常食べている肉についてあらためて、自然界の循環や環境について考える機会となっている。生徒たちは自分たちが生きていくための食物について深く考え、感謝して残さず食べることの意義を理解するようになった。

畑作のようす

今後　大きな感動を与える農業体験を継続

農家の作業を実際に体験すること、食の生産現場を知ることは、大人が考えるよりも大きな驚きを生徒たちに与えるようだ。農業体験の実施には費用がかかるが、生徒にとって意義の深い体験ができており、今後も引き続き取組んでいきたいと考えている。また、食べ物の大切さを理解することから、フードリサイクルへの取組などへとさらに発展させていきたい。


酪農体験（牛の世話）

広げよう つなげよう 環境学習の輪

実施校からメッセージ

宿泊研修で生徒が植えた稲は、秋に農家が収穫し精米して、学校に送ってくれます。生徒はそれを一人5合ずつ家庭にもち帰って、家族で味わっています。家庭でも「地産地消」への意識づけになってくれればと考えています。